

令和2年度

事業報告書
一般会計収支計算書

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月 31日

社会福祉法人 新宮市社会福祉協議会

令和2年度 社会福祉法人新宮市社会福祉協議会事業報告

近年、少子高齢化の進展、家族形態の変化、雇用形態の多様化、近隣関係の希薄化などを背景に支援を必要とする高齢者や障がい者、生活困窮者が増加しており、生活課題は複雑化、多様化しております。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、様々な地域活動が制限されるとともに社会的孤立や経済不況による生活困窮など新たな生活課題が顕在化しています。

こうした状況の中、地域福祉部では様々な事業や会議等が中止や縮小せざるを得ない部分もありましたが、地域福祉を推進する中核的な団体としての役割や機能を再認識し、生活福祉資金特例貸付事業やマスク配布事業など、感染防止対策を講じたうえで「つながり」を途切れさせないために創意工夫しながら個別課題、地域課題に取り組んでまいりました。

介護保険事業部においても、高齢者、障がい児者など支援が必要な方々が住み慣れた環境で安心して生活できるよう、感染予防対策を講じながら各サービスを継続してまいりました。また、経費削減や事業規模を縮小し、安定した経営に向け取り組み令和2年度は黒字決算となりました。今後も引き続き運転資金等の財源確保に努めるとともに制度改正や報酬改定の変化に対応しながら将来性を見据えた経営を目指します。

国においては地域社会の変容と複雑化、多様化する福祉課題に対応するため、さまざまな制度改革がすすめられています。「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向け、市町村社協の役割を認識しながら、行政や各関係機関、団体等と連携を図り、役職員一丸となって取り組んでまいります。

〔令和2年度重点事業報告〕

1. 「社協・生活支援活動強化方針」に基づく事業・活動の具体化（見える化）

全社協から提示されている地域共生社会の実現に向けた社協活動の在り方や具体的な活動内容に基づき、地区担当職員がそれぞれの地区で開催されているサロンや行事への参加、地域に出向いての相談活動を実施することで地域課題の把握及び地域住民や多様な主体と顔の見える関係づくりに努めるとともに、社協活動の見える化を図りました。また、新型コロナウイルスの影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯を対象に生活福祉資金の貸し付けを行いました。

令和2年度は高田・熊野川地区の生活支援コーディネーターを市より受託し、平成29年度に受託した新宮市生活支援コーディネーターと地区担当職員、包括支援センターが連携し、相互に個別課題や地域課題について情報共有しました。また、コロナ禍のなかで「つながり」を維持するための活動として中央児童館との協働によるマスク作り及び配布事業や市内小学校や関係団体との協力により、地域住民の皆様に対して応援メッセージカードを配布する事業を実施しました。

2. 第3次地域福祉活動計画の推進

平成31年3月に策定した第3次地域福祉活動計画（令和元年度～令和5年度）の進捗状況について地区懇談会を開催し地域住民の意見を伺う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響もあり地区懇談会は開催できず、各地区担当職員が進捗状況や新たな課題等を整理し今後の取組みを確認しました。令和3年度は計画期間の中間年度にあたるため、地区懇談会等を開催し各地区の進捗状況や新たな課題の確認等を住民の皆様と共有するとともに課題解決に向け取り組んでいきます。

3. 介護保険事業3ヶ年経営改善に基づく取組

介護保険事業部においては平成31年1月に受けた「経営の在り方検討会答申」の中で示されている「介護保険事業3ヶ年経営改善計画」に基づき、事業規模の縮小や経費削減に取り組ましました。当初は令和2年度に黒字化する計画でしたが、昨年度に黒字化を達成し、今年度も黒字決算となりました。今後は安定した経営に向け、財源確保（運転資金、建物修繕費等）や人材育成等に取り組んでいきます。

〔事業別実施報告〕

1. 会の運営と組織基盤の確立

(1) 理事会・評議員会の開催

〔理事会〕

令和2年 6月11日

(書面決議)

- ・ 高田・熊野川地域の生活支援コーディネーター事業の受託について
- ・ 令和2年度第1次補正予算案の同意について
- ・ 令和元年度事業報告の認定について
- ・ 令和元年度法人全体収支決算の認定について
- ・ 定款の一部改正について
- ・ 令和2年度第1回評議員会の招集について

令和2年10月29日

- ・ 会長の職務執行状況の報告について
- ・ 歳末施設訪問の廃止について
- ・ 令和2年度第2次補正予算案について
- ・ 定款の一部改正について
- ・ 役員等の報酬及び実費弁償に関する規程の一部改正について
- ・ 法人後見事業の実施について
- ・ 第2回評議員会の招集について

令和3年 1月31日

(書面決議)

- ・ 定款の一部改正について
- ・ 法人後見事業実施要綱について
- ・ 第3回評議員会の招集について

令和3年 3月11日

- ・ 会長の業務執行状況について
- ・ 令和2年度第3次補正予算案について
- ・ 令和3年度事業計画・予算案について
- ・ 地域福祉基金の取り崩しについて
- ・ 第4回評議員会の招集について

〔評議員会〕

- 令和2年 6月24日
(書面決議)
- ・高田・熊野川地域の生活支援コーディネーター事業の受託について
 - ・令和2年度第1次補正予算案の同意について
 - ・令和元年度事業報告の認定について
 - ・令和元年度法人全体収支決算の認定について
 - ・定款の一部改正について
- 令和2年11月10日
- ・歳末施設訪問の廃止について
 - ・令和2年度第2次補正予算案について
 - ・定款の一部改正について
 - ・役員等の報酬及び実費弁償に関する規程の一部改正について
 - ・法人後見事業の実施について
- 令和3年 2月19日
(書面決議)
- ・定款の一部改正について
 - ・法人後見事業実施要綱について
- 令和3年 3月23日
- ・会長の業務執行状況について
 - ・令和2年度第3次補正予算案について
 - ・令和3年度事業計画・予算案について
 - ・地域福祉基金の取り崩しについて

〔監 査〕

5月27日 令和2年度事業執行状況並びに計算書類等について監査

(2) 正副会長会議の開催

毎月会長、副会長、事務局職員で社協の運営全般にわたり協議しました。

(3) 自主財源の確保と会員加入の促進

① 社協会費会員の加入状況

個人会員 (1口 500円)	1, 740口 (元年度	2, 104口)
賛助会員 (1口 3,000円)	201口 (元年度	223口)

特別会員（1口 5,000円）	46口	（元年度 47口）
法人会員（1口10,000円）	38口	（元年度 40口）
会費収入合計	2,083,300円	（元年度 2,356,000円）

②赤い羽根共同募金配分金	2,070,646円	（元年度 2,125,215円）
歳末たすけあい配分金	525,486円	（元年度 2,048,608円）
新宮いのちの募金配分金	465,000円	（元年度 623,000円）
MACHIサポート募金配分金	481,000円	（元年度 377,000円）

(4) 先進地社協等との情報交換、視察研修

地域共生社会の実現に向けて先進的に取り組んでいる阪南市の実践報告会に参加し、今後の地域づくりの進め方や社協としての方向性等を学びました。

(5) 職員研修等の実施

職員研修等で人権について学ぶ機会を設け、職場全体で人権意識の向上に努めました。

「和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例について」

「DVD鑑賞 ～ネット差別を許すな!～」

講師：東牟婁振興局地域振興部主幹 岡田実氏 12月4日

(介護保険事業部)

- ・介護支援専門員スキルアップ研修（毎週開催）
- ・訪問介護員研修会（毎月開催）

[会議]

和歌山県・市町村社協関係

- | | |
|----------------------------------|--------|
| ・令和2年度都市町村老人クラブ連合会 会長・事務局長会議 | 6月30日 |
| ・和歌山県市町村社会福祉協議会 令和2年度第3回理事会 | 7月30日 |
| ・和歌山県市町村社会福祉協議会 災害時の社協活動検討会（第1回） | 8月6日 |
| ・令和2年度市町村共同募金委員会ブロック別会議 | 8月6日 |
| ・和歌山県市町村社会福祉協議会 災害時の社協活動検討会（第2回） | 10月8日 |
| ・令和2年度地域共生社会推進研修会・市町村社協事務局長会議 | 11月18日 |

- ・ 令和2年度生活福祉資金貸付事業担当者会議 1月27日
- ・ 令和2年度郡市町村老人クラブ連合会事務担当者会議 2月18日
- ・ 和歌山県市町村社会福祉協議会 令和2年度第4回理事会（オンライン参加） 3月16日

〔研修会への参加〕

和歌山県・市町村社協関係

- ・ 令和2年度成年後見制度利用促進に向けた体制整備研修会 9月 1日
- ・ 令和2年度成年後見制度促進体制整備研修（基礎） 9月28日、29日
- ・ 和歌山県民生委員児童委員協議会 令和2年度主任児童委員会 11月13日
- ・ 令和2年度成年後見制度促進体制整備研修（応用） 12月16日、17日、18日
- ・ 令和2年度生活支援コーディネーター養成研修会 1月25日
- ・ 和歌山県地域福祉推進フォーラム兼市町村社会福祉協議会役職員研修会 3月 5日
- ・ 令和2年度広域・同時多発災害対応訓練 2月20日

介護保険関係

- ・ 令和2年度和歌山県主任介護支援専門員研修（第1日目～11日目） 10月7日～2月2日
- ・ 和歌山県苦情解決研修会 10月23日
- ・ 同行援護従業者養成研修応用課程 3月1日、3月15日

その他

- ・ 令和2年度和歌山県社会福祉協議会会長表彰 10月16日

(6) 人事評価の実施 全職員に対して人事評価を実施し、職員の資質の向上及び勤労意欲の向上を図りました。

(7) 広報誌等の発行

社協広報誌「アシスト」を毎月発行（全戸配布）

(8) 予算執行管理システムの構築

介護保険事業部の月次収支データをもとに予算執行状況や課題について正副会長会議で協議しました。

2. 小地域を単位とした地域福祉活動の推進

(1) 「社協・生活支援活動強化方針・第2次アクションプラン」の共通理解

地域共生社会の実現に向け、社協として取り組むべき具体的な活動方針として全社協から提示されている「社協・生活支援活動強化方針・第2次アクションプラン」を地域福祉部の会議等で確認し、具体的な活動

方法や今後の社協の方向性について理解を深めたうえで、市内8地区（旧小学校区）の課題を整理しました。今後は把握した課題を地域住民や各団体等と共有し、課題解決に向け計画的に取り組んでいきます。

(2) アウトリーチの徹底（地域に出向き課題を把握する）

相談や生活課題を受け身で対応せず、地区担当職員が地域に出向いて自治会長、民生委員児童委員、福祉委員、関係団体等と顔の見える関係を構築することで表面化されたニーズはもとより、潜在的なニーズの把握を積極的に行いました。

(3) 「ふくし相談」の充実による分野横断的かつ包括的に支援する総合相談体制の構築

窓口だけの相談ではなく、地区担当職員が地域に出向いて、地域住民や自治会長、関係団体等と関係性を構築することで、地域住民の方が気軽に相談できる体制作りを努めました。制度、事業、分野を問わず、あらゆる相談を受け止め、必要に応じて包括支援センターや専門機関等につなぐ等の対応をしました。

また、令和2年3月25日から実施している特例貸付の相談に関しては市に設置されている自立相談支援機関と連携し、生活資金の貸し付けとともに生活再建についての相談支援を行いました。

3. 第3次地域福祉活動計画の推進

(1) 第3次地域福祉活動計画の基本目標の推進

第3次地域福祉活動計画の基本目標である「人育て」「まち育て」「ネットワーク育て」を目指し、地域福祉活動の推進に取り組みました。

(2) 各地区地域福祉活動計画の推進（地域福祉活動の支援）

計画では地域課題を解決するために様々な行事やイベント、会議等が位置付けられていましたが、新型コロナウイルスの影響により計画どおりに進めることができませんでした。

(3) 地区懇談会の実施

計画の進捗状況を確認するため地区懇談会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止しました。次年度は計画期間の中間年度にあたるため地区懇談会を開催し評価を実施します。

4. 地域福祉事業の推進

(1) 生活支援コーディネーター事業の受託

【第1層生活支援コーディネーター（市内全域）】

コロナ禍において、人と人とが互いに距離を取り接触する機会を減らすことが求められ、地域福祉活動及びボランティア活動の休止や活動自粛が余儀なくされました。その様な状況下、地域支え合いフォーラムや勉強会を開催し、コロナ禍においても繋がる事を諦めず感染防止策を講じながら、地域福祉活動やボランティア活動の再開を目指しました。

今年度は生活支援コーディネーターが変更となったこともあり、地域の課題や社会資源の把握及び顔の見える関係性を構築するために、各地区で開催されているサロン活動や会議への参加及び、自治会長、民生委員児童員、福祉委員等へのヒアリングを行いました。介護や認知症等の個別課題についても社協や包括支援センターなど他の関係機関と連携し対応しました。

①地域支え合いフォーラムの開催（10月18日 市役所庁舎別館 参加人数83名）

平成29年度から実施している「生活支援体制整備事業」について、今年度は「住み慣れた地域でいきいきと暮らしたい」という思いを実現するために、これからの地域に必要な支え合いについて考えるきっかけ作りとして開催しました。

（内容）・落語「命短し恋せよ乙女」 落語家 熊野家三九郎氏

- ・基調講演「みんなで支えあうあたたかいまちをつくろう～居場所から有償ボランティアまで～」
講師：公益社団法人さわやか福祉財団会長 堀田力氏

- ・取組発表「わがらでつくった居場所」の取組
発表者：王子おやつサロン 仲富美子氏
チームくまのがわ 吉田元紀氏

- ・パネルディスカッション

②第1回地域支え合いにかかる研修会（11月16日 新宮市役所庁舎別館 参加人数約50名）

「地域支え合いフォーラム」に参加し、地域活動に興味や関心がある方、やってみたいと思っている方を対象とし、地域の担い手づくりを目的として開催しました。

（内容）・フォーラムの振り返りのまとめ、アンケート報告、新型コロナウイルス感染拡大に配慮した地域福祉の展開、つながりの維持にむけての全国の取組事例の紹介

- ・グループワーク、発表（コロナ禍における各地区の活動状況、今後の支え合いについて）

③第2回地域支え合いにかかる研修会（3月9日 福祉センター集会室 参加人数約50名）

コロナ禍において感染防止策を講じながらサロン活動を実施していくために、新型コロナウイルスについての知識や予防方法を正しく理解する必要がため研修会を開催しました。

（内容）・新型コロナウイルスについて 講師：新宮市保健所保健課保健グループ主査 仲住公泰氏

- ・コロナ禍における活動事例の紹介

④コロナ禍における新たな取り組み活動

「つながり」を途切れさせないための取り組みとして中央児童館との協働によるマスク作りを実施し、市内の福祉施設や保育園に届けました。また、市内の小学校の児童が地域の方々に応援メッセージカードを作成し、福祉センターや市役所、スーパーセンターオークワ南紀店に掲示しました。一部の地域では、民生委員児童委員や福祉委員のご協力によりメッセージカードを高齢者宅に届けていただき、見守りや交流を図ることができました。

【第2層生活支援コーディネーター（高田・熊野川）】

高田・熊野川地域における高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため支援ニーズとサービスコーディネーター機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して支援体制の充実・強化を図ることを目標として取り組みました。

新型コロナウイルスの影響により、毎月行っていた「チームくまのがわ」の定例会は開催できませんでしたが、マスク作りや学校池周りの草刈り、熊野川中学校の畑作業の支援等を実施しました。

高田地区においては市と地域住民とで協議されている「高田区会議（旧村づくりの会）」に参加し、区の福祉防災部会では福祉委員が中心となってレスキューポットを高齢者宅へ配布し訪問することで見守り活動を行いました。また、部会ごとに定期的に集まり今後の地域づくりについて意見交換と今後の活動についての協力体制の構築に努めました。

(2) 小地域ネットワークづくり事業の推進

①区、町内会との連携

募金活動を通じて地区担当者が各区、自治会長と連携し地域の課題把握に努めました。

②新宮いのちの募金助成事業

新宮いのちの募金助成事業として、防災・減災を目的とした地域の見守り活動の充実を図りました。

③地域福祉推進リーダーの発掘

地区担当職員が地域へ出向き、町内会長等地域の方々との交流を深めるとともに、地域の社会資源等の実態を把握しながらリーダーの発掘に努めました。

④ふれあいいいききサロンの開催

新型コロナウイルスの影響により6月頃までサロン活動は中止していましたが、社会的孤立感や引きこもりによる心身機能の低下を予防するため、感染拡大防止策を講じたうえで再開していききました。

丹鶴地区

- ・ 5月30日、ホウ酸団子作りを実施し、福祉委員が見守りを兼ねて地域住民に配布しました。
- ・ 健康体操サロンは2グループに分け人数制限しながら実施しました。月4回開催

千穂第1地区

- ・ 7月10日、神倉憩いの家にて、ホウ酸団子づくりサロンを開催 参加者約15名
- ・ 新型コロナウイルスの影響により、屋外でのサロンを検討し公園でのグラウンドゴルフや高野坂の散策を開催。計3回開催 参加者約95名

千穂第2地区

- ・ 民生委員児童委員の協力のもと橋本会館にて、「ふくし相談」を開催しましたが新型コロナウイルスの影響により1回のみで開催。参加者約6名
- ・ 福祉委員のサロンについては、新型コロナウイルス感染防止の為、福祉委員のみの小人数でしそジュースづくりを行い、以前参加された一般住民の方に配布し見守り活動を実施。
3カ所 計4回開催 参加者約30名
- ・ お散歩サロンとして、西村記念館や高野坂を散策。2カ所 計3回開催 参加者約55名

王子地区

- ・ 新型コロナウイルスの感染防止対策により、小人数でのホウ酸団子作りを実施。(6月)
- ・ クリスマスプレゼントを47軒へ見守り戸別訪問(12月)を行った。

蓬萊地区

- ・ 新型コロナウイルス感染防止のため、しばらくサロンを休止していましたが12月12日蓬萊会館にてスカットボール大会、3月27日は蓬萊公園にて民謡、ビンゴゲーム、花見などを実施。
計2回 参加者約66名

三輪崎地区

- 9月26日 三輪崎会館にて、第1回雑巾縫いサロンを開催し11月に光洋中学校へ寄贈
参加者約20名
- 12月22日 三輪崎会館にて、第2回サロン(コロナの勉強会と介護体操)を開催。コロナウイルスについてDVDで研修を行った後、椅子に座り手足の軽い運動を行った。参加者約27名
- 1月30日 三輪崎会館にて、第3回サロン「くまのなる在宅診療所」濱口政也医師による在宅医療・介護について講話を開催。参加者約41名

高田地区

買い物サロン2ヶ月に1回、グランドゴルフ月2回実施。

熊野川地区

11ヶ所（19地区）67回開催 参加者数423名 ※新型コロナの影響で4.5.6月は休止
（令和元年度 12ヶ所（17地区） 96回開催 参加者数620名）

⑤一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問

民生委員児童委員の実態調査をもとに、地区ごとに近隣に身寄りのいない75歳以上の一人暮らし高齢者290名、65歳以上の寝たきり高齢者91名を対象にコロナ禍での不安を軽減するため民生委員児童委員がメッセージや感染対策グッズを郵送または訪問にて配布し激励しました。

（元年度 一人暮らし高齢者282名、寝たきり高齢者100名）

⑥ふれあい交流事業への協力

ふれあい交流会の開催にあたり、各地区の福祉委員と感染予防対策やプログラム内容、開催の可否等を協議しました。

丹鶴地区

- ・3月21日 4団体合同（福祉委員・民生委員児童委員・公民館・青年団）による屋外でのふれあい交流会を予定していましたが雨天中止となったため、実行委員の方が弁当や抽選会の景品を袋詰めし、参加を予定されていた地域住民を訪問し見守りを兼ねて配布。

千穂第1地区

- ・3月25日 ふれあい交流事業として神倉小学校運動場にてグラウンドゴルフ大会を予定していたが、雨天のため神倉小学校体育館にてくじ引き大会を開催。 参加者約85名

熊野川地区

- ・区長連絡協議会・熊野川公民分館・熊野川地区民生委員児童委員協議会・熊野川地区福祉委員会・ゆうゆうクラブ熊野川支部の5団体共催によるふれあい交流事業を実施。新型コロナウイルスの影響で開催方法を変更し、11月11日に町内3会場にてグラウンドゴルフ大会を開催。コロナ禍での開催となり中学生は不参加となりました。 参加者100名（3会場合計）
- ・3月30日、若者広場にてふれあいお楽しみ会を実施。新型コロナウイルスの影響により内容も大幅に変更し、舞台発表、参加型ゲーム、介護予防体操、盆おどり等を楽しみました。参加者140名（中学生は高齢者と非接触での参加）

※千穂第2地区、蓬莱地区、王子地区、三輪崎地区、高田地区は各地区の福祉委員や地域住民の意向を踏まえ感染防止のために中止となりました。

(3) 福祉委員活動の推進

- ①福祉委員登録者数 令和2年3月末現在 8地区合計 280名（令和元年3月末現在289名）
- ②地区福祉委員会正副委員長会議 年5回開催
- ③視察研修 10月開催予定であったが新型コロナウイルスの影響により中止
- ④全体研修会 11月開催予定であったが新型コロナウイルスの影響により中止
- ⑤地区福祉委員会ごとに定例会及び研修会を開催。

各地区の状況に応じて感染防止策を講じながら、可能な範囲で定例会を開催しました。

(4) 福祉のまちづくり事業の実施

- ①障がい児激励事業（実施期間12月15日～12月17日）
新型コロナウイルスの影響により「新春お楽しみ会」は中止となりましたが障害児父母の会会員約60名にクリスマスプレゼントを渡しました。
- ②「愛の日」バザー 新型コロナウイルスの影響により中止
- ③人権研修会 毎年、新宮市と共催で実施している人権研修会は新型コロナウイルスの影響により中止
- ④歳末施設訪問 令和2年度より事業廃止

5. ボランティア活動事業の推進

(1) ボランティア・市民活動センター事業

活動の異なる様々な団体が協働して誰もが住みよいまちづくりを目指すとともに、登録している団体・個人がボランティア市民活動センターに常駐し一般市民対象の行事を開催するなど、ボランティア活動への参加促進を図っています。

・登録数 84団体（内NPO法人6）、個人25名（元年度 91団体・個人34名）

①運営委員会の開催

12名の運営委員及び監事2名により毎月開催（10回）4、5月は新型コロナウイルスの影響により中止

②広報・啓発

- ・社協広報誌「アシスト」にコーナーを開設、また参加団体や社協役員、評議員に会報「結夢だより」を送りました。
- ・掲示板を利用し、参加団体またはセンターの催しなどの情報提供とともにブログにて情報発信しました。

③交流と連携(ネットワーク)の促進

- ・総会(新型コロナウイルスの影響により書面決議)
- ・12月11日 名取市などセンとのオンライン交流会を実施し、お互いの活動紹介や意見交換を行い、新たなネットワークができました。

④勉強会、研修会の開催 新型コロナウイルスの影響により中止

⑤「しんぐう元気フェスタ」の開催

新型コロナウイルスの影響により中止となりましたが、密を回避できる活動として「ボランティア川柳」を実施しました。コロナ禍でも明るく、元気が出るような川柳を募集し入賞作品を審査しました。

(応募総数49名 93句)

⑥カルチャーサロンの開催

登録団体の協力により、5サロンを計53回開催。(元年度8サロン 106回)

今年度は、絵手紙教室・ゆる体操・マジック教室・ちぎり絵教室・折形教室を開催。

布ぞうり作り教室・筆文字教室・盆点前サークルは、新型コロナウイルスの影響により休止。

(2) ボランティアコーディネート事業

①ボランティアの育成

[研修会等の開催]

- ・ボランティア養成講座の開催

小・中学生を対象とした「手話教室」 新型コロナウイルスの影響により中止

一般を対象とした「点字教室」 新型コロナウイルスの影響により中止

[福祉教育の推進]

- ・福祉教育担当者会議 新型コロナウイルスの影響により開催中止

- ・福祉体験講座の開催

点字・車いす・高齢者疑似体験講座などの出張講座を開催。

高等学校 1 校、中学校 1 校、小学校 2 校 准看学校 1 校、保健センター 1 回
延べ 6 回開催（元年度 3 校 1 5 回）

- ・ ボランティアスクールの開催 新型コロナウイルスの影響により中止
- ② ボランティア活動の支援
 - ・ 相談、活動支援
 - （朗読サービス）
毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」をカセットテープに吹き込み、声の広報として発送。
利用者 4 名 ボランティア やすらぎグループ「声」
 - （点訳サービス）
毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」を点訳し発送
利用者 5 名 ボランティア 点字ボランティア「てんとう虫」

6. 要援護者支援事業の推進

（1）福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な高齢者、知的障がい者・精神障がい者等が地域で安心して自立した生活が送れるよう福祉サービスの利用手続きや公共料金等の支払い、通帳や証書の預かりなどの支援を行っています。また、専門員連絡会や生活支援員研修会、利用者のケース会議等へ参加し、サービスの向上を図っています。

法人後見事業について、令和 3 年度中に受任体制を整え地域福祉権利擁護事業で培った高齢者や障がいのある方への支援方法の知識・経験を活かし、ご本人の意思を尊重した支援を行います。また、社会福祉協議会の特徴を活かし、地域住民や福祉・法律の関係機関と連携し、ご本人を中心とした見守りのネットワークを構築します。

契約件数 2 5 件（高齢者 9 名、知的障がい者 1 2 名、精神障がい者 2 名、その他 2 名）
（元年度契約件数 2 2 件）

（2）生活困窮者支援事業への協力

市福祉課の自立相談支援員と連携し、新型コロナウイルスの影響により生活困窮となっている方に対して生活再建に向けての相談や生活資金の貸付を実施しました。

（3）福祉車両貸出事業 貸出件数 9 3 件（元年度 1 1 2 件）

（4）車椅子貸出事業 貸出件数 8 7 件（元年度 9 3 件）

（5）紙おむつ半額助成事業

新宮市から紙おむつの給付を受けている方で社協会員を対象に実施。利用者数7名(元年度4名)

(6) 貸付事業の実施

・生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

低所得者世帯の生活の安定と経済的自立を図るために和歌山県社会福祉協議会からの受託事業として実施しています。また、新型コロナウイルスの影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯を対象に生活福祉資金の貸し付けを行いました。(特例貸付)

貸付件数 1件 2, 223, 000円を貸付(元年度 2件 3, 490, 000円)

特例貸付 384件 130, 961, 000円(3月31日時点)

・緊急小口資金貸付事業

10万円を限度に緊急を要する低所得者に貸付しました。

貸付件数 1件 50, 000円を貸付(元年度 3件 197, 629円)

7. 災害時対応事業の推進

(1) 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

新型コロナウイルスの影響により中止しました。

(2) ボランティア・市民活動センターとの連携

例年災害ボランティアセンター設置運営訓練時に活動ボランティア、運営ボランティアとしての協力をしていただいておりますが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、予定していた連携活動が実施できませんでした。

(3) 和歌山県社会福祉協議会(和歌山県災害ボランティアセンター)との連携

南海トラフ地震や大雨災害等を想定した場合、県社協単独で必要な運営支援を行うことは困難なため、市町村社協と県災害ボランティアセンターが一体となって、「先遣隊」「災害VC運営支援者」を養成し派遣する仕組みを構築しました。

・被災地災害VC運営支援の経験を有する職員を災害VC運営支援者としてリスト登録

・広域同時多発災害訓練への参加(令和3年2月20日 海南市わんぱく公園)

・災害VC運営支援、中核スタッフ養成研修への参加

(4) 県下市町村社会福祉協議会における災害時の相互支援

平成24年1月30日に締結された「社会福祉協議会における災害時の相互支援協定」によって県内の市町村社協と災害時の相互支援について取り決めています。また、毎年和歌山県市町村社協連絡協議会災害時の相互支援活動積み立てとして拠金しています。

8. 善意銀行の運営

214,389円(14件)の寄付金を受入れました。
(令和元年度 781,143円 23件)

9. 福祉サービスにおける苦情解決第三者委員会の運営

- ・ 第三者委員による検討事案はありませんでした。

10. 福祉関係団体との連携

(1) 民生委員児童委員協議会との連携

- ・ 子育て支援事業 子育てサロン、おやこサロンは新型コロナウイルスの影響により中止
- ・ 生活福祉資金貸付け審査及び償還調査の依頼 (貸付審査1件)
- ・ 一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業の共催

(2) 老人クラブ連合会(ゆうゆうクラブ)との連携

- ・ 老人クラブ活性化の推進
各単位クラブの活性化のための地域交流サロン(健康体操、グランドゴルフ等)を増やしていけるように連携しました。
- ・ 女性部活動の推進
会員の多くが女性のため、女性部活動を充実させることで新規会員の獲得ができるよう連携しました。
女性部交流会：新型コロナウイルスの影響により中止
健康づくり教室：11月2日 「介護予防のための楽しい音楽療法」 参加者89名
栄養講習会：11月30日、12月1日、12月2日の3回開催 参加者 81名(3日間合計)

ときめきサロン： 7月15日 参加者10名

・生きがいと創造の事業の推進

健康、生きがいづくり事業として「生きがい教室」「はつらつ教室」「老人菜園」の実施協力をしました。

生きがい教室 12教室 受講者 332名

はつらつ教室 3教室 受講者 35名

老人菜園 2カ所 利用者 63名

・愛の日ゆうゆうクラブ芸能大会への協力 新型コロナウイルスの影響により中止

(3) 赤十字事業への協力

・日赤活動資金募集 お願い額4,330,000円に対し、実績額2,469,171円

(令和元年度 実績額3,665,509円)

(4) 共同募金運動への協力

・赤い羽根共同募金運動

募金が地域の活動に活かされ自分たちのまちを良くするために3つの募金活動「ささえ愛募金」「MACHIサポート募金」「新宮いのちの募金」を実施しました。

目標額4,428,000円に対し、実績額2,379,271円

(元年度 実績額3,604,839円)

・歳末たすけあい運動 1,684,250円の募金があり、525,486円を配分

(元年度1,704,587円の募金があり、2,048,608円を配分)

【配分内訳】

福祉施設(2施設)	89,000円
ボランティア市民活動団体(3団体)	119,000円
歳末施設訪問事業	廃止
一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業	131,805円
事務費	37,589円
障がい児激励事業(新春お楽しみ会)	148,092円
合計	525,486円

1.1. 指定管理者制度（受託事業）の推進

(1) 福祉センター管理運営

福祉センター貸館業務

高齢者の生きがい教室や研修会等への貸館業務を実施。

延べ利用者6,745名（令和元年度 30,535名）

高齢者入浴サービスの実施

福祉センターの浴室を毎週開放（火曜日女性、金曜日男性）

延べ利用者967名（令和元年度 918名）

(2) 中央児童館の運営

子どもの健やかな育成を図るために、日々の遊びを通しての個別指導の他、集団でのクラブ活動、創作や季節行事、野外での自然体験活動、異世代間の交流事業など、様々な遊びを通して健全に発達していくよう支援をしています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、3月2日～6月8日まで閉館しました。また、閉館中はつながりを途切れさせないための活動として、マスク作り及びマスク配布を実施しました。職員と一緒に小中学生数名が在宅でできるボランティア活動としてマスク約450枚を作製し、出来上がったマスクは、地域福祉部の協力のもと市内数カ所の施設へ届けました。

① 運営委員会の開催（運営委員8名）

7月17日 令和元年度活動報告並びに令和2年度事業計画他について承認

② 利用状況

登録人員 284名 年間延べ利用者数 7,207名 開館日数195日 1日平均 37名

（令和元年度 509名 年間延べ利用者数15,721名 開館日数213日 1日平均 74名）

③ 主な事業内容（ ）は参加人数

・創作活動や季節行事の実施

ハロウィンクッキー作り（24名）・おじいちゃんおばあちゃんに手紙を送ろう（9名）

アドベントカレンダー作り（23名）・クリスマス会（26名）・大掃除（22名）

コマ回し大会（10名）・チョコケーキ作り（24名）・ひな飾り作り（16名）

- ・ クラブ活動を通して集団的援助活動
 - 週 2 回実施(スポーツ・パッチワーク)・週1回実施(卓球)
 - 月 2 回実施(お絵かきアトリエ)・月 1 回実施(わくわくクラブ) 5クラブ
 - ・ ジュニアボランティアの育成
 - ジュニアボランティアクラブ(4～6年生対象 月1回の定例会と児童館行事の手伝い)
 - ・ 運動遊びを通じた体力づくりの推進
 - スポーツクラブ・ドッジボール等
 - ・ 未就園児の親子を対象にした子育て支援活動の実施
 - 親子であそぼうクラブ(月2回 計18回実施 延べ163組 326名)
 - ・ 市児童館や子育て関係機関との連携
 - チャレラン大会(市内の5児童館で同種目を各館にて行う。2回開催(8月、2月 延べ124名)
 - ・ 体験活動
 - かき氷体験(4日間延べ139名)
 - ・ その他の事業
 - オリジナル巾着袋作り(16名)・スライム作り(18名)・おたのしみひろば(50名)
 - あそび大作戦(30名)・作ってあそぼう(3回実施 延べ43名)
- ④新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業
- ・ バスハイキング
 - ・ ゆうゆうクラブ女性部と交流ふれあいおはぎ作り
 - ・ 市内5児童館合同ふれあい遠足

12. 介護保険事業の運営 内は令和元年度実績 ※少数点以下は四捨五入

(1) 居宅介護支援事業（ケアプランの作成）

ケアプラン作成件数 961件（月平均80件） 1,721件（143件）

(2) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス事業）

延べ利用者数39,465名（月平均3,289名） 40,250名（3,354名）

訪問時間36,585時間（月平均3,049時間） 37,838時間（3,153時間）

(3) 障害者総合支援居宅介護事業（障害者ホームヘルプサービス事業）

延べ利用者数13,918名（月平均1,160名） 13,932名（1,161名）

訪問時間13,528時間（月平均1,127時間） 13,977時間（1,165時間）

(4) 介護認定訪問調査の受託

調査件数 0件 58件

(5) 介護予防サービス事業

①介護予防支援計画、介護予防ケアマネジメント計画の作成

介護予防支援計画 133件（月平均11件） 336件（28件）

介護予防ケアマネジメント計画 80件（月平均7件） 242件（20件）

②介護予防訪問介護

延べ利用者数8,715名（月平均726名） 10,159名（847名）

訪問時間8,747時間（月平均729時間） 10,309時間（859時間）

(6) 熊野川地域包括支援センター

相談件数 265件 246件

介護予防支援計画 100件（月平均8件） 83件

介護予防ケアマネジメント計画 117件（月平均10件） 145件

介護予防教室 開催回数 12回 23回

参加人数 101名 196名

(7) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業の実施

利用者数 95名

92名

計画作成 94件

105件

モニタリング 395件

410件

(8) にこにこサービス事業(介護保険外制度外サービス)

延べ利用者数 263名(月平均22名)

452名(38名)

訪問時間 251時間(月平均21時間)

467時間(39時間)

(9) 和歌山県介護人材確保対策事業

介護現場において、慢性的な人手不足等により介護人材を確保できていない現状にあるなか、県から「和歌山県介護人材確保対策事業」を受託し、介護に関する知識及び技術を修得する機会を創出することにより、介護現場への新規参入を図ることを目的として新翔高等学校の生徒を対象に「介護職員初任者研修修了資格」取得のための講師として職員を派遣。 受講者数 15名